

令和 2 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立加美小学校

令和 3 年 2 月

大阪市立加美小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」結果から平均正答率では、国語 A が対大阪市比 95.7%、国語 B が対大阪市比 93.4%、算数 A が対大阪市比 92.6%、算数 B が対大阪市比 91.5% という結果となり、大阪市平均正答率より、平均約 6.7% 下回っている。平均無回答率は、対大阪市比で 126~186% と大きく上回っている。また、経年テストの結果からどの学年でも大阪市平均正答率より、教科によりバラつきはあるものの平均約 5 点下回っている。

また、児童生徒の問題行動等生活指導上の諸問題に関する調査の結果から、共通理解した指導方針に基づき、報告・連絡・相談を徹底した。打ち合わせを頻繁に行い、いじめアンケートを活用し児童の状況の把握に努めた。いじめの解消に向けては、早急に対応し解決に努めている。また、休みがちな児童には、家庭と連携し協力を図りながら、スクールカウンセラー・こども相談センター・区子育て支援室等の専門機関とも連携し不登校解消に努めている。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 平成 29 年度～32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100% にする。
(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を、90% 以上にする。
(施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を、75% 以上にする。
(施策 2 道徳心・社会性の育成)
- 平成 32 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、加美ふれあい広場など、家庭・地域と連携した、特色ある取り組みを進めている」の質問に肯定的回答をする保護者の割合を 85% より向上させる。
(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 32 年度の全国学力・学習状況調査における「普段 1 日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対して「全くしない」と答える児童の割合を、平成 28 年度より減少させる。
(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成 32 年度の児童・保護者アンケートの「学校の授業はよくわかる」等の授業にかかわる肯定的な回答の割合を昨年度より上回る。
(施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における立ち幅とびの平均の記録を、大阪市平均以上にする。
(施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成)
- 平成 32 年度の全国学力・学習状況調査における「1 日あたりどれくらいの時間、読書しますか。」に対する不読回答を 20% 以下にする。
(施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)

学校園の年度目標

- 令和2年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- 令和2年度小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を、90%以上にする。
(施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現)
- 令和2年度小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を、75%以上にする。
(施策2 道徳心・社会性の育成)
- 令和2年度末の保護者アンケートにおける「学校は、加美ふれあい広場など、家庭・地域と連携した、特色ある取り組みを進めている」の質問に肯定的回答をする保護者の割合を85%より向上させる。
(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である立ち幅とびの平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

学校園の年度目標

- 令和2年度の児童アンケート「家では、時間を決めて学習をしている」に対する否定的な回答を20%以下にする。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 令和2年度の児童アンケート「学校の授業はよくわかる。」に対する否定的な回答を20%以下にする。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における立ち幅とびの平均の記録を、大阪市平均以上にする。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)
- 令和2年度の児童アンケート「本をよく読んでいる」に対する否定的な回答を20%以下にする。
(施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援)

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の教育活動は、新型コロナウイルス感染症のため、当初予定していた取組内容を変更したり、新たに付け加えるなどしながら実施した。特に授業日数減・授業時数減という状況下で、修得主義と履修主義のバランスをとりながら教育課程を着実に実施することに注力した。こういう状況のため、平常時で設定した全市共通目標や学校の年度目標は、評価の対象とせず、個々の取り組み内容と指標のみを実質的な対象として評価した。個々の取り組みについては、工夫と実践によって、ほぼ【B】評価とした。一方で「時を守り」「場を清め」「礼を正す」という一貫した目標により、次年度の取組について、具体的な改善提案がされている。また、来年度の学校の年度目標についても、本年度の活動のブランクを考慮した「見直し」の必要性があり、取組んでいきたい。

大阪市立加美小学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○ 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) ○結果：100%解消</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) △結果：経年調査3月23日</p> <p>○ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) ○結果：ゼロ</p> <p>○ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) △結果：感染症予防措置の出席停止扱いのため不登校実態把握不可</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 令和2年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成) ○結果：100%対応</p> <p>○ 令和2年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を、90%以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) △結果：経年調査3月23日</p> <p>○ 令和2年度の小学校学力経年調査における「自分には、良いところがあると思いますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を、75%以上にする。 (施策2 道徳心・社会性の育成) △結果：経年調査3月23日</p> <p>○ 令和2年度末の保護者アンケートにおける「学校は、加美ふれあい広場など、家庭・地域と連携した、特色ある取り組みを進めている」の質問に肯定的回答をする保護者の割合を85%より向上させる。 (施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援) ✖結果：74.2%</p>	(B)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>『いじめについて考える日』の取り組みを全体で共有する場を設定し、「いじめを許さない学級・学校づくり」に努める。</p> <p>指標：学期に1回いじめに関するアンケートを実施する。また、認知したいじめ解決のため、学校全体で共通理解を図れるよう、学年会、生活指導部会を開く。</p>	B
<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○ 「時を守り・場を清め・礼を正す」 集中力を高める活動を取り入れ、時間を守る習慣を身に着ける。</p>	B

指標：加美トレの全校実施により、集中力を高め、時間を意識して活動する力を涵養する。加美トレPTを中心に取組みの計画・実施・効果検証を行う。	
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○ 「時を守り・場を清め・礼を正す」 校舎内・教室内を整頓し清潔に保つ習慣を身に着ける。	B
指標：「清掃・整理整頓」について、全校組織内に担当を設け、全校で取り組む。各学級で、学期に一回以上、取り組み内容の確認と振り返りを行う。	
取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ○ 「時を守り・場を清め・礼を正す」 学校の様々な場面で「あいさつ」できるよう、各学年の実態に応じた取り組み・啓発活動を行う。 あいさつ：「おはようございます」「宜しくお願いします」「ありがとうございます」「さようなら」「ごめんなさい」	B
指標：「あいさつ」について、全校での取り組みを1回以上実施。各学級で、学期に1回以上、取り組み内容の確認と振り返りを行う。	
取組内容⑤【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 家庭・地域と連携した特色ある活動を行う。	B
指標：地域と連携した活動を（加美ふれあい広場・地域防災活動など）、1回以上実施する。	
取組内容⑥【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援＝多文化共生教育】 国際クラブの活性化を図り、多文化共生教育を推進し、自己肯定感を涵養する 指標：遊びを通じた国際理解の場を全学年で年1回以上行う。また、モジュール学習や総合的な学習の時間を通して、英語などの外国語を進んで使えるようになる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①学期に1度いじめアンケートを実施することで学級のいじめを認知することができた。そして、認知したいじめや生活指導上の問題など、共通理解すべき事柄を職員会議や生活指導部会、いじめ対策委員会で共有することができたため、学校全体で連携して取り組むことができた。また、「いじめについて考える日」の取り組みを全学年実施することができた。	
②今年度は臨時休校があり、その後も変則的な時間割になった。そのため、計画していた加美トレが週に2回の取り組みになり、「集中力を高める」ことができたかどうかの検証ができない。	
③臨時休校後の時数確保のため、今年度は週に2回の実施だったが、子どもたちはしっかりと清掃ができています。また職員で掃除場所の監督責任者を決めたことで、昨年度より、きれいになった。清掃に対する、教職員の意識が高まった。	
④指標は達成しており、あいさつができる児童は増えている。しかし声が小さかったり会釈のみであったり、中にはまったくあいさつをしない児童もいる。これまであいさつの指導は看護当番が週末に状況報告をするだけであって、その後、どのように児童を育てていくのかについてはそれぞれの判断に任されていた。意思統一と指導法の改善等を話し合う場が必要である。	
⑤コロナ禍の中、活動を工夫することで年1回以上実施することができた。	
⑥遊びを通じた国際理解の場（ノリモイム）はできなかったが、各学年で課内実践等、国際理解・多文化共生に取り組んだ。また、国際クラブ発表会を通して、外国にルーツを持つ子たちが自分の国を大切に作る気持ちを育むとともに、周りの子どもたちもそれぞれの国のことを知ることができた。	
外国語の授業やモジュール学習、掲示物、C-netとの交流を通して、外国語に親しみ、少	

しずつ使えるようになってきた。

次年度への改善点

- ①今年度の取り組みを継続し、いじめの解消を学校全体で図っていく。そのためにも、全教職員が共通理解するための方法を検討する。また、来年度も引き続き、高学年中心に情報教育を実施し、個人情報の取り扱い方法について学習を深めていく。
 - ②学校目標の「時を守り」を受けた、時間を守る習慣を身に着けることを達成するための指標として加美トレを位置づけることを、再考する必要がある。
 - ③清掃活動は、しっかりと行われているので、清掃の方法を考える必要がある。埃だらけの廊下や階段をほうきで掃くことなどの可否について考えていく必要がある。
 - ④あいさつ指導の工夫を話し合う機会を設け、具体的な言葉かけや取り組みについて話し合う。とくにあいさつ指導をするポイントを明確にする。たとえば①相手より先に②声を出す③相手を見る④頭を下げる・・・を決めておく。担任が児童をほめるポイントにもなり、児童が自分を振り返るポイントにもなる。
 - ⑤保護者を招いての活動ができなかったなので、子どもたちにやる気を持たせるためにもやはり参観をしたい。
 - ⑥遊びを通した国際理解の場（ノリモイム）を全学年で実施し、各学年でも課内実践等の国際理解・多文化共生に関する取り組みを計画的に進める。
- C-net と連携して、外国語の授業やモジュール学習を進め、外国語を進んで使えるようにする。

大阪市立加美小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○ 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） △結果：経年調査3月23日</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） △結果：経年調査3月23日</p> <p>○ 小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） △結果：経年調査3月23日</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 （施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） △結果：経年調査3月23日</p> <p>○ 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横とびの平均の記録を、前年度より1ポイント向上させる。 （施策7 健康や体力を保持増進する力の育成） △結果：調査 中止</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○ 令和2年度の児童アンケート「家では、時間を決めて学習をしている」に対する否定的な回答を20%以下にする。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ✖結果：41, 4%</p> <p>○ 令和2年度の児童アンケート「学校の授業はよくわかる。」に対する否定的な回答を20%以下にする。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） △結果：項目変更</p> <p>○ 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における立ち幅とびの平均の記録を、大阪市平均以上にする。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成） △結果：調査 中止</p> <p>○ 令和2年度の児童アンケート「本をよく読んでいる」に対する否定的な回答を20%以下にする。（施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援） ✖結果：37, 4%</p>	(B)

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力への取組】</p> <p>規則正しい家庭学習習慣を身に着けるよう、子どもに促す。</p> <p>指標：小学校学力経年調査における「学校で出された宿題以外に、自分で計画を立てて学習をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。</p>	B

<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力への取組】</p> <p>加美トレ（15分集中トレーニング）を実施し、集中力と自己有能感を高めることを通して基礎学力を向上させる。</p> <p>指標：大阪市小学校学力経年調査の算数（計算領域）の個人の経年比較を向上させる。</p>	B
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力への取組】</p> <p>「主体的で深い学び」の観点で、日々の授業改善を図る。</p> <p>指標：研究教科（算数）と学力向上推進モデル事業（算数）の取組において、3回以上の研究授業または公開授業を行う。</p>	B
<p>取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力への取組】</p> <p>読む力を向上させるため、図書室の整備を進める。</p> <p>指標：図書室の100%バーコード化蔵書管理の活用促進に取り組む。</p>	B
<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>運動週間を設け、基礎体力の向上を図る。</p> <p>指標：体力を高めるための運動週間を年2回実施する。</p>	B
<p>取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>外遊びに対して肯定的にとらえる児童を増やす。</p> <p>指標：学校生活アンケートに「一週間で3回以上、外遊びをしている」の項目を追加、肯定的な回答を50%以上にする。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>①宿題以外で計画を立てるのは難しいと感じた。児童に任せっきりにするのではなく、家庭学習の具体的な方法などを提示する必要があった。</p> <p>②週に2回の取り組みだったこともあり、「基礎学力の向上」の検証ができない。また、経年テストの個人経年比較もできない。ただ、週に2回ではあるが、全学年で加美トレに取り組むことは定着した。</p> <p>③学力向上推進モデル事業と連携することにより、指導案検討から外部講師を招くことができ、授業力の向上につなげることができた。</p> <p>④バーコード化で管理がしやすくなった。また、ひらちゃんノートの活用で、読書する子が増えた。しかし、コロナの影響で、図書室の活用ができなかった。</p> <p>⑤縄跳び週間、駆け足週間を計画的に実施することができた。また、運動週間を実施することで、休み時間にも積極的に遊ぶ児童が増えた。</p> <p>⑥学校アンケート「一週間で3回以上、外遊びをしている」の項目において肯定的な回答50%以上と目標を達成した。</p>	
<p>次年度への改善点</p> <p>①「家庭学習のすすめ」を作成して配布するなど、宿題以外の学習方法を具体的に提示し、児童が自分で取り組めるような手立てが必要。</p> <p>②効果検証をする方法を考えないといけない。</p> <p>③次年度も継続して取り組んでいく。その上で、基礎的な部分（ハンドサインやノートの取り方など）を揃えていくことが必要である。</p> <p>④ボランティアの確保ができれば、図書館開放を行い、感染予防のため飛沫防止アクリルパーティションを用意し、図書室での閲覧を可能にする。学年だよりや図書館だより等で、読書の啓発をする。</p> <p>⑤次年度も計画的に実施する。</p> <p>⑥寒い時期になると外遊びに対する肯定的な回答が減少する。また、高学年になるにつれて、休み時間に教室で過ごすことが多くなる。運動することの良さを伝えたり、たてわり班で遊ぶ機会をつくったりと具体的な手立てを考え取り組んでいく。引き続き、学年や学級での継続的な声かけが必要である。</p>	